

1 信州医療センター

発表者：鶴田 佳子

A病院の シミュレーション教育の活動報告

長野県立信州医療センター 看護部

鶴田 佳子

三井 貴美子



長野県医療従事者シミュレーション教育指導者研究会

COI 開示

発表者名： ◎鶴田 佳子、三井 貴美子

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業、
法人又は団体はありません。

はじめに

- 「シミュレーションは、学習者の知識と技術の統合により実践力を強化する教育としてその効果が世界的にも実証されている。」と阿部氏は述べている
- A病院でも平成31年よりシミュレーションチームとして活動を開始した

シミュレーション教育活動経過

- ▶平成31年4月 看護部教育委員会の下部組織としてシミュレーションチームを設立
- ▶翌年シミュレーション委員会として活動

質の高い看護実践能力を持ち自己の能力開発に努め、
学び続けることのできる看護師の育成を目的とした

構成メンバー

- チーム設立当初

シミュレーション基礎教育を受けた者

- 委員会設立後

各部署の師長推薦により決定

*必ずしも基礎教育を受けたスタッフが委員になっているわけではないが、委員は積極的に機構本部研修センターが企画している指導者研修に参加している

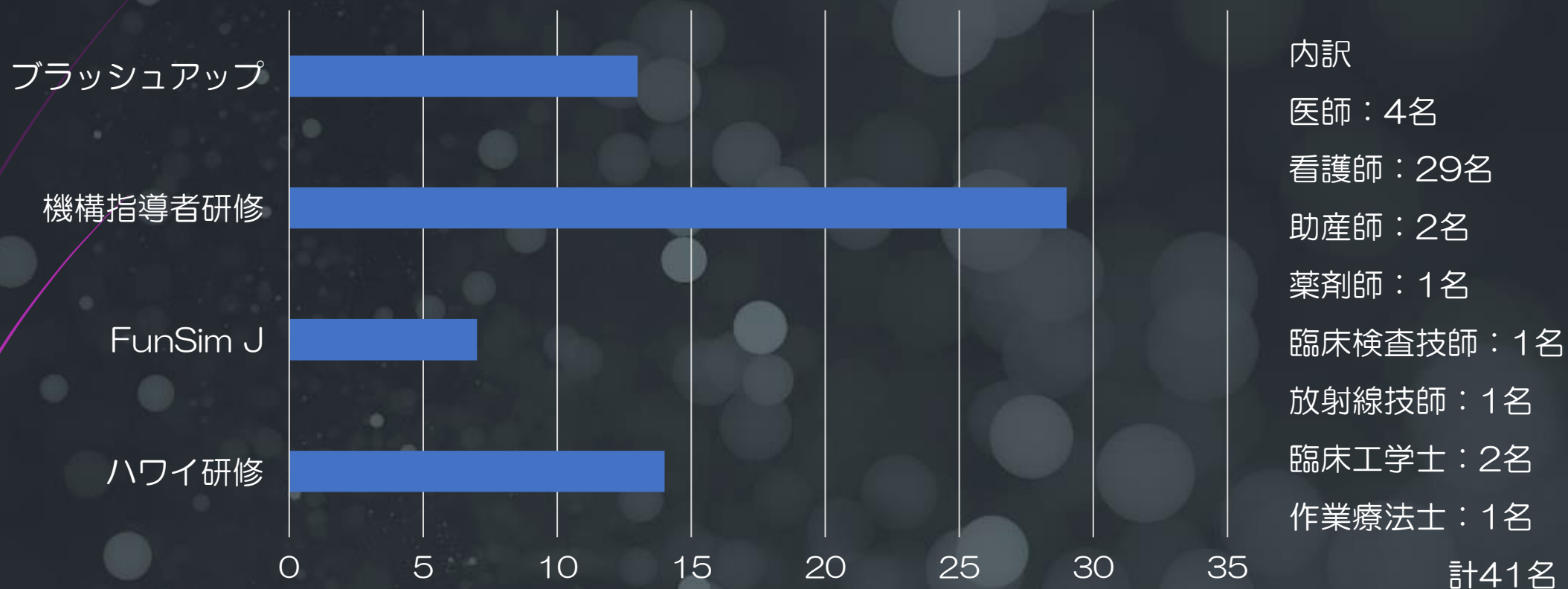
シナリオ作成数

- 4年間で15例
（チーム設立から令和3年度まで）
- 一部は依頼のあった研修で使用

研修協力をしたシミュレーション形式の 研修例

- 新人技術演習：バイタルサイン測定
- 新人研修：救急看護・多重課題（机上シミュレーション）
- 3年目研修：リーダーシップ研修
- 看護部研修：シミュレーションを学ぼう

シミュレーション研修受講者 (機構本部研修センター企画)

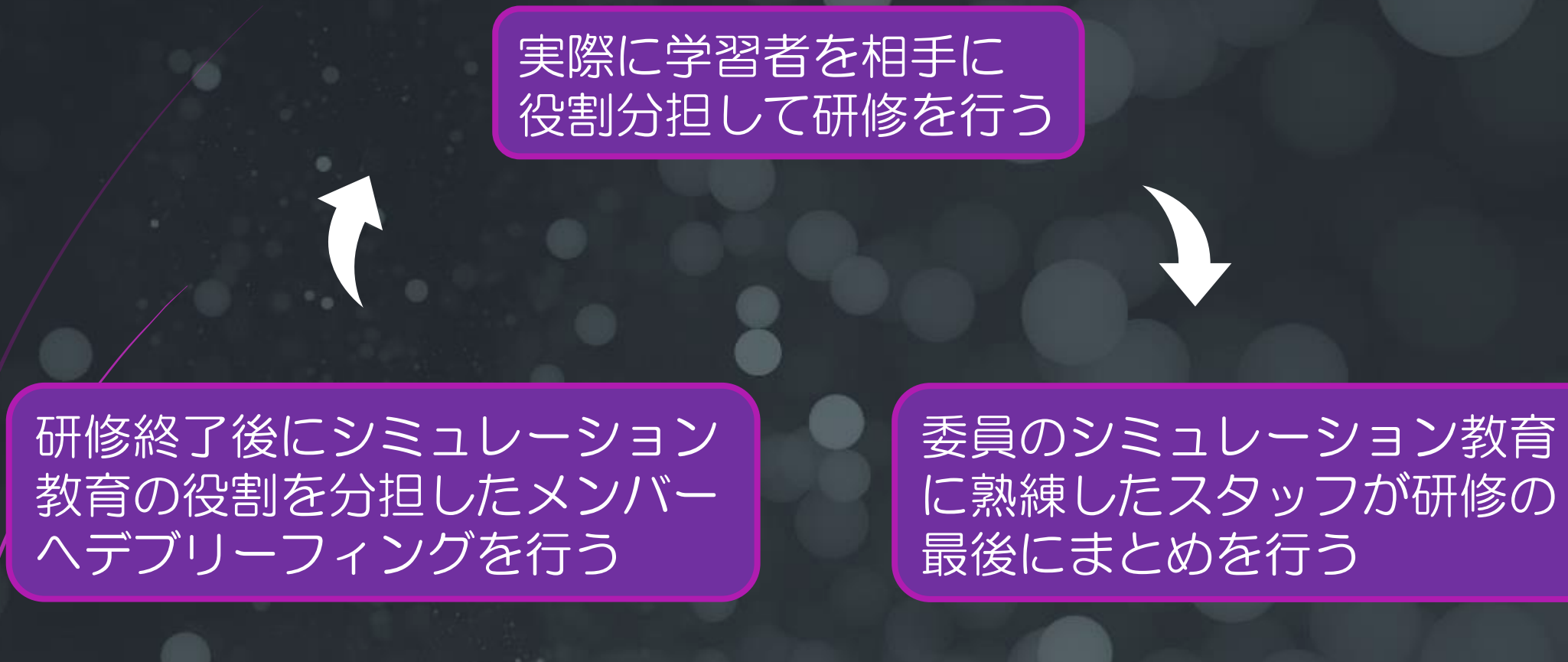


委員の強化

- ▶ 初めて委員になると、看護部研修
「シミュレーションを学ぼう」に参加



- ▶ 基礎教育研修に参加し学びを深める



実際に学習者を相手に
役割分担して研修を行う

委員のシミュレーション教育
に熟練したスタッフが研修の
最後にまとめを行う

研修終了後にシミュレーション
教育の役割を分担したメンバー
へデブリーフィングを行う

今後の課題

- シミュレーション教育の知識、スキルを持つスタッフの育成
- デブリーフィング等の能力の維持、向上
- 現状に合わせてシナリオの内容修正

ご清聴ありがとうございました

2 こころの医療センター

駒ヶ根

発表者：小池 美佐子

「患者の興奮・攻撃性が増した時の 緊急ブザー対応」 のシミュレーション実践報告

こころの医療センター駒ヶ根

小池美佐子 大蔵真理 伊藤一郎

長野県医療従事者シミュレーション教指導者研究会

COI開示

発表者： ◎小池美佐子 大蔵真理 伊藤一郎

**演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業、法人
又は団体はありません。**

院内での研修意義

病院として取り組んでいる
「患者の権利擁護体制確保」研修のひとつ

今年度内に全病棟と外来で実施予定

シミュレーション研修実施の理由

- 患者が興奮し現場での対応が困難な場合は、非常ブザーを押し応援を依頼している。

その時スタッフが患者の気持ちへの配慮、役割やチームワークを意識して対応できない場面がある。

興奮時の患者への対応技術（ディエスカレーションなど）を研修で学び患者の権利擁護につなげる。

用語の定義

【ディエスカレーションとは】

心理的知見をもとに言語的・非言語的な
コミュニケーション技法によって怒りや衝動性、
攻撃性をやわらげ、患者を普段の穏やかな
状態に戻すこと

シナリオの目的

**緊急ブザー時、
役割分担をし、患者の気持ちを配慮し、
職員がディエスカレーションの視点をもって
対応を実践できる。**

シナリオ①病棟

参加人数 : B2病棟看護師10名

全体の時間 : 45分

場所 : 体育館

課題 :

患者が詰所にいた看護師に話しかけたが返答がないため、
無視されたと怒り出し机をひっくり返そうした。
興奮した患者にどのように対応するか

作戦タイム5分 : 話し合った後にシナリオ開始

課題

ホール

作戦タイムを5分とります。

患者アン1号



イス

机

机



イス

患者アン2号

こころ看護師が
無視した。
ばかにした！！



患者Yさん



看護師B



看護師こころ



看護師Cリーダー

ナースステーション



応援スタッフD



応援スタッフE

ディブリーフィングの実際

【作戦タイム】

- ・患者と話す職員は 1 名
- ・リーダーは役割を振る
- ・患者の怒りの感情を聞くように関わる
- ・患者を囲まず応援者は離れた位置で場所を移動する



**実際： 焦りが出て、取り囲むような対応になった。
患者の怒りの感情を聞ければよかった。**

よりよい対応にするには

- ・日頃から、対応の振り返りをする**
- ・情報共有が必要**
- ・業務開始時に体制の確認や対策を立てる**

等

参加者アンケート結果から抜粋

【研修で最も重要だと思ったこと】

- ・全体をみて状況を確認し、
患者の安全・他患者の安全・看護師の安全確保
- ・スタッフ同士の目配せ
- ・対応を知っておくと、威圧感ない対応ができる 等

【日々の業務に取り入れられること】

- ・患者側の心情を聞いた
- ・状況をみて役割を考えた動き 等

シナリオ②外来

参加人数　　： 外来看護師6名

全体の時間　： 45分

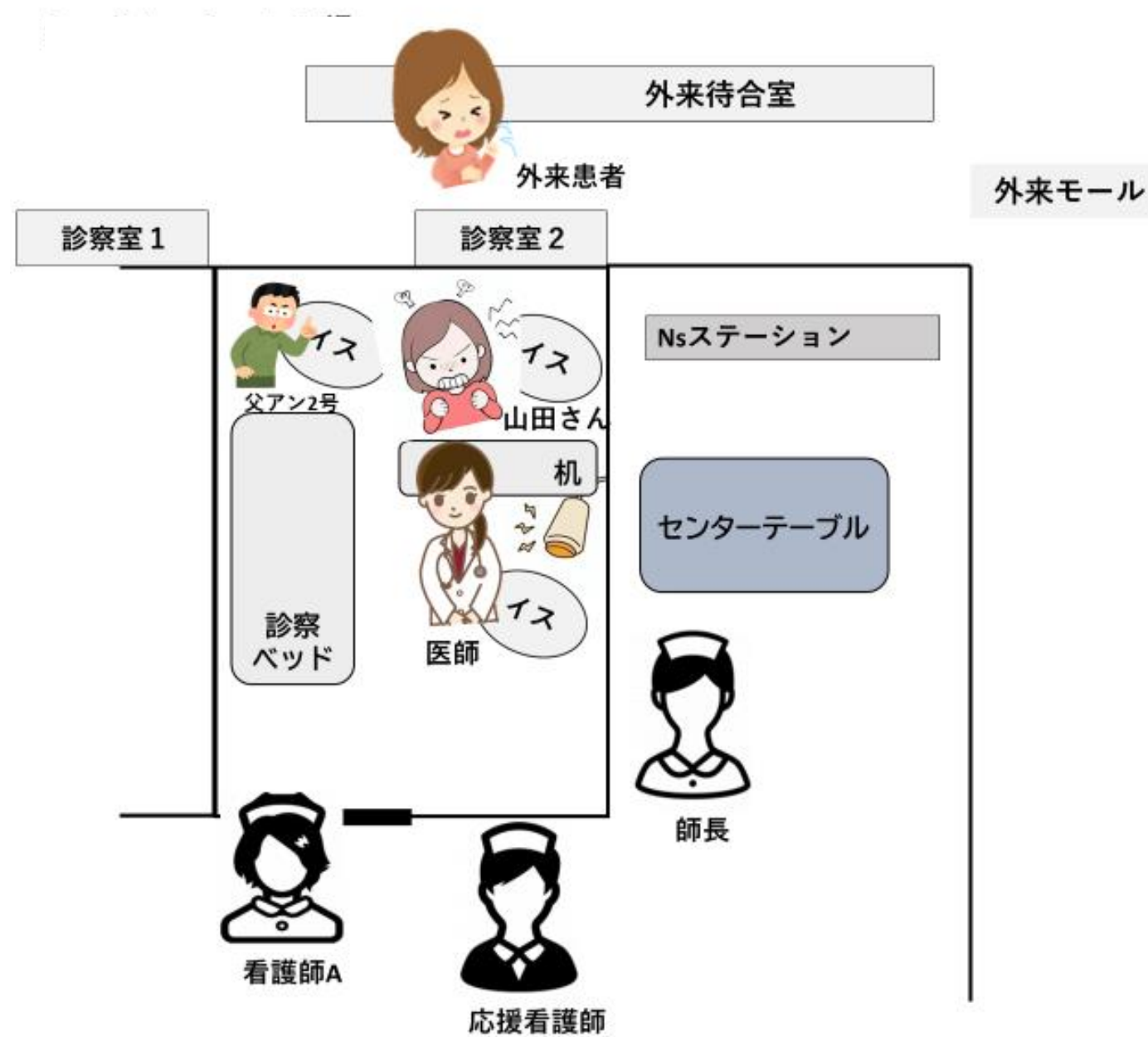
場所　　　　　： 外来

課題

**主治医から入院を勧められた患者が怒鳴り、椅子を蹴り
診察室から飛び出した。**

作戦タイム5分： 話し合った後にシナリオ開始

課題



ディブリーフィングの実際

【作戦タイム】

- ・看護師は診察室の外で周囲の患者に配慮する
- ・非常ブザーは声掛けですぐに押す
- ・応援者に状況を伝える役割を作る



**実際：患者は見られたくないし周囲の患者も怖いだろう
と配慮し避難してもらえた。**

患者さんが診察室を出たが院内にいたので追いかけた。

よりよい対応にするには

- ・救急外来へ誘導など場所を検討**
 - ・患者をよく知る主治医が応援者へ指示を出す**
 - ・外来、病棟の違いを双方が理解する**
（外来患者は必ずしも入院が前提ではないことなど）
- 等**

参加者アンケート結果から抜粋

【研修で最も重要だと思ったこと】

- ・追いかけると逃げたくなる患者の心理を知ること
- ・患者にかかわる人、指示をする人の役割ができるの良い。
- ・応援者は状況がどうなっているかわからない 等

【日々の業務に取り入れられること】

- ・患者の行動の予測と対応をスタッフが共有する
- ・目配り、気配り、自分の立ち位置、声かけの仕方 等

学習目標の達成

患者役の演技力が
肝！要！でした。

- ・作戦タイムを取ったことで、役割分担し患者の気持ちを配慮する意識をもって対応するシミュレーションになった
- ・各自が意識しているディエスカレーション的な考えを共有できた
- ・チーム対応の実践力が高められた

今後の課題

- ・学習目的により場所を選定する
- ・オープンな外来と閉鎖された病棟の特性を理解しておく必要がある
- ・各部署での学びの共有,現場に合わせたシナリオ作り,指導者のスキルアップが必要



ご清聴ありがとうございました.

3 阿南病院

発表者：宮島 洋美

× 阿南病院 シミュレーション 研究教育活動

～今後の課題と展望～

阿南介護老人保健施設 宮島洋美

阿南病院 看護部 松下千春

看護部 南島恵

地域連携室 西森則子

医療技術部 大塩誠司



長野県医療従事者シミュレーション教育指導者研究会

COI 開示

宮島洋美 松下千春 南島恵 西森則子 大塩誠司

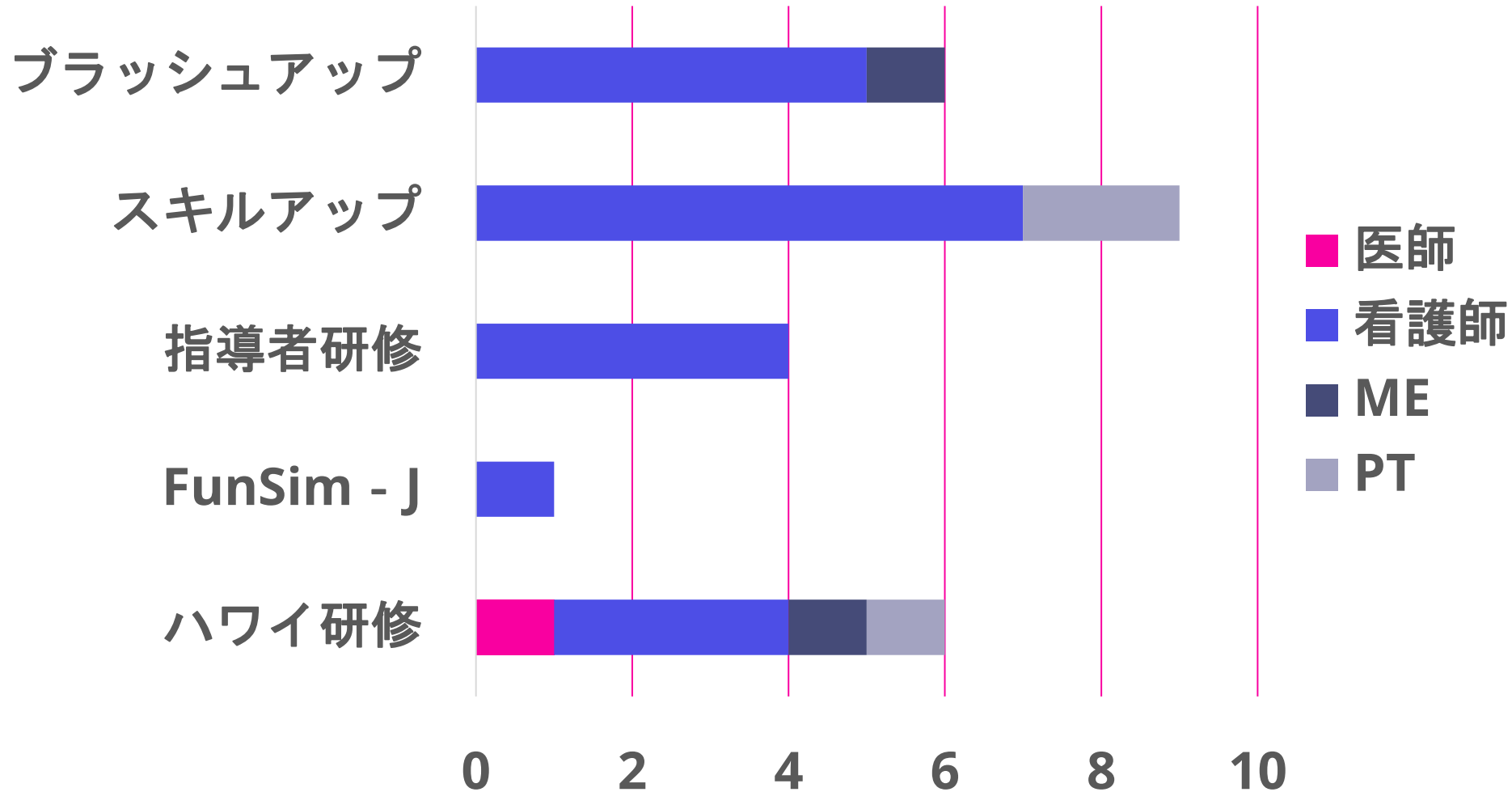
演題発表に関連し、開示すべきCOI 関係にある企業、法人又は団体はありません。

はじめに

シミュレーション教育

- +長野県立病院機構
ハワイSim Tikiシミュレーションセンター
- +本部研修センター
シミュレーションスキルアップシリーズ
- +阿南病院 **2021年**
シミュレーション指導者教育委員会設置

研修受講者



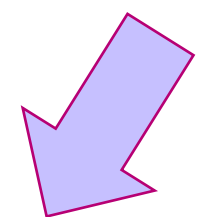
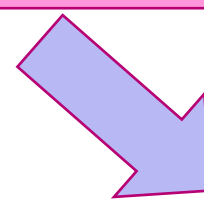
医師 1名
看護師11名
臨床工学技士1名
理学療法士3名



シミュレーション研修受講終了

シナリオ使用してみたいが、
どうしたらよい？

ファシリテートに自信がない



シミュレーション教育指導者委員会

本委員会のイメージ

シミュレーション教育指導者委員会

阿南シミュレーション教育指導者委員会

本部研修センター

阿南病院

木曽病院

こども病院

こころの医療センター駒ヶ根

信州医療センター



シミュレーション教育指導者

- ・ ハワイSimTiki研修
- ・ シミュレーション教育指導
スキルアップシリーズ
- ・ FunSimJ、iSIM-J
参加者で構成

本委員会の目的

シミュレーション教育 指導者委員会

- ・ シミュレーション教育に携わる職員の連携
- ・ シミュレーション教育シナリオ共有システムの構築及び活用の促進
- ・ シミュレーション教育指導者の育成
- ・ シミュレーション教育指導者研究会の開催

阿南シミュレーション教育 指導者委員会

- ・ シミュレーション教育指導者・研修受講者の連携
- ・ シミュレーション教育指導者の育成
- ・ シミュレーション教育研修の企画・開催

シミュレーション教育に携わる職員の連携

シミュレーション教育シナリオ情報共有事業(シナリオ登録・意見交換)

シミュレーション研修の充実

シミュレーション教育指導者研究会

シミュレーション教育指導者の育成

Fun Sim J・ISIMJの受講

シナリオブラッシュアップ講座の受講

シミュレーション教育指導スキルアップシリーズの受講

シミュレーション教育指導スキルアップシリーズのファシリテータ

シミュレーション教育指導スキルアップシリーズのαテストのサポート

活動内容

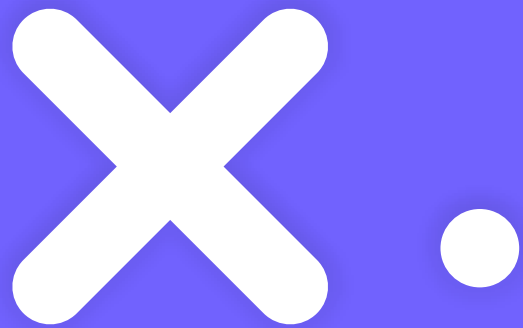
研修名	委員会メンバーの役割
クレーム患者対応のシミュレーション研修 (接遇委員会と共催)	シナリオ作成からシナリオファシリテーションとデブリーフィングはグループディスカッション等で実施
3～4年目看護師対象 急変に遭遇した夜勤リーダー看護師の対応	シナリオ作成からファシリテータ、デブリーファーを担当
新人看護師対象（教育委員会と共催） 転倒転落時に対応 SBAR での報告	シナリオ作成からファシリテータ、デブリーファーを担当
新人看護師対象（教育委員会と共催） エンゼルケア	シナリオ作成からファシリテータ、デブリーファーを担当

課題

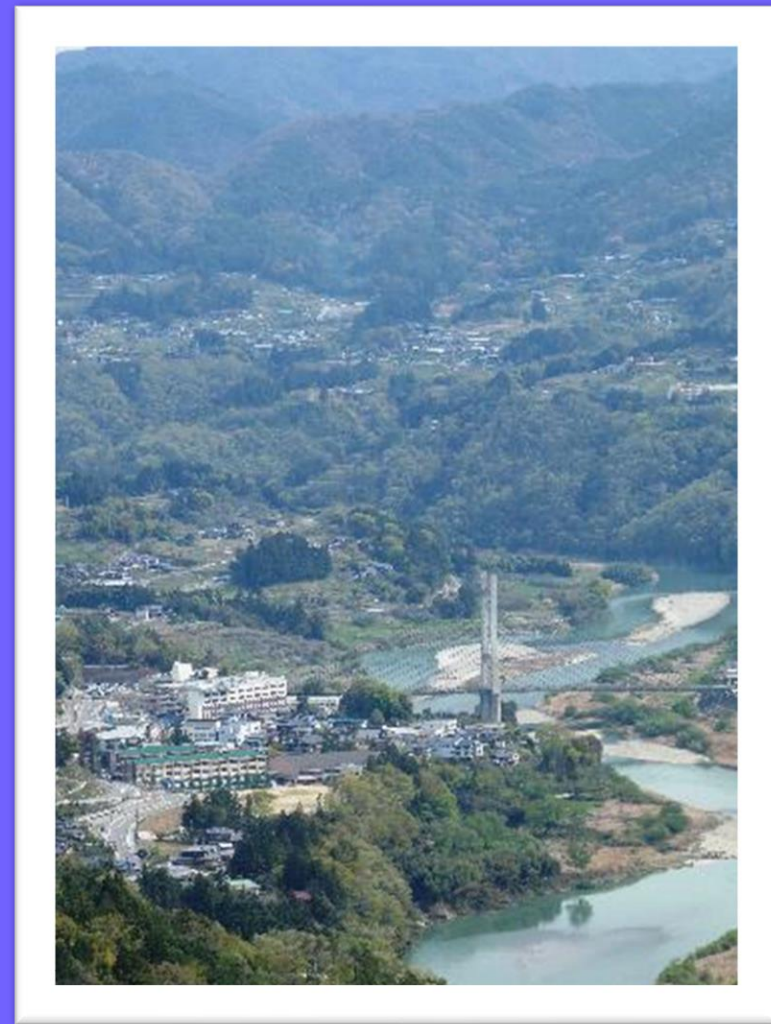
- + 人員メンバーの確保
- + 指導者へのフォロー
- + 研修時間の確保

展望

- + 本部研修センターとの連携
- + 本研究会の参加
- + 地域、近隣病院、施設との情報交換、連携を強める



ご清聴ありがとうございました



4 木曾病院

発表者：羽田 涼介

様式2-B

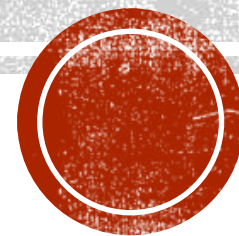
長野県医療従事者シミュレーション教育指導者研究会 COI 開示

発表者名: ◎羽田 涼介
共同研究者: 下島 里佳

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業、法人又は団体はありません。



新人看護師におけるシミュレーション 教育の有効性と課題



木曽病院 手術・中央材料室 看護師 羽田 涼介
共同研究者 3階南病棟 看護師長 下島 里佳

初めに

- 当院では新人看護師を対象に研修の一環として、「多重課題」「転倒・転落」「窒息」をテーマに年3回のシミュレーション教育を行なってきた。
- 開催直後のアンケートでは高い評価を受けていたが、実際に現場で活用出来ているか等の追跡調査は行っていなかった。
- 今回、2年目看護師（以下、2年目）と3年目看護師（以下、3年目）を対象にアンケート調査を行ない、実際に研修が現場で役立っているか実態について調査を行なった。



調査方法

対象：新人看護師研修にて同じ内容のシミュレーション教育を修了した2年目6名と
3年目6名の計12名

方法：googleフォームを使用したWebアンケート

倫理的配慮：アンケートは匿名で行なう事、回答者に不利益が生じない事、本研究以外
で結果を使用しない事を院内倫理委員会にて審議、承認を得た



結果

- 12名中12名から回答あり、詳細は抄録を参照。
- 2年目、3年目を問わず、受講者のほとんどが研修を受講した事は記憶していた。
- しかし、学習目標については半数以上が一部の研修しか記憶していなかった。

→ 様々な要因が考えられるが、事実として学習者に学習目標が記憶されなかった。

→ 研修に問題があった。



考察 1

■形骸化したシミュレーション教育の提供

→ 教育委員会全体でシミュレーション教育に関する知識の不足や認識のズレが生じていた為、「去年はこんな感じだった」と形だけをトレースした研修となっていた。



考察 2

■有識者の不足

年度毎に委員の入れ替わりがあり、シミュレーション教育に携わって日の浅い委員や未経験の委員がほとんどである。

→ シミュレーション教育に精通し、研修の指導が出来る委員がいない。



改善策 1

■ シミュレーション教育に精通した人材の育成

質の向上だけを考えるのであれば、シミュレーション教育に特化した単独の委員会を構築する事が望ましい。しかし人材、時間に限界があり単独化は難しい。

→ 限られた中で効率良く、且つ効果的にシミュレーション教育が行えるように、指導することができる教育委員を育成していく事が必要である。



改善策 2

■委員会内での知識の共有

教育委員となるスタッフは中堅以上の人が多く、シミュレーション教育の受講や指導にあたった経験の無いスタッフもいる。

→ 新人研修でシミュレーション教育を実施する前に、学習会を行い、目的・手法などについて委員全員が理解する。



まとめ

- 新人研修で行ったシミュレーション教育は数年が経過しても現場で活かされていた。
- 研修開催直後のアンケートでは判明しなかった指導者側の問題点を今回の追跡調査で見つける事が出来た。
- 学習者が思考を深められる研修を提供するために、委員会全体でシミュレーション教育を学び、実践していく。



5 こども病院

発表者：横山 みゆき

こども病院における 救急シミュレーション実践報告

こども病院 NICU副看護師長
横山みゆき



Nagano Children's Hospital

Pediatric Intensive Care Unit

Better Future for Kids and Families

長野県医療従事者シミュレーション教育指導者研究会 COI 開示

**演題発表に関連し、開示すべき COI 関係にある
企業、法人又は団体はありません。**



Nagano Children's Hospital

Pediatric Intensive Care Unit

Better Future for Kids and Families

はじめに

医療安全における救急シミュレーション教育導入の背景

- ・ 急変時コミュニケーションエラーにより重大な医療事故が発生している。安全な医療提供のためには良好なチームワークが必要である。インシデント事例や急変事例を再現し、Team STEPPSを活用した、シミュレーション教育を実施し、チームトレーニングをしながら原因分析や医療安全への知識、認識のすり合わせを図り、臨床での医療事故防止につなげる
- ・ 2010年に救急シミュレーションチームができ、医療安全管理室の下部組織として各部署での救急シミュレーションの企画・運営やBLS/PBLS講習会をひらいている
- ・ チームメンバーはPALSインストラクター医師による指導、ハワイ大学でのSimTikiでの研修参加等によりシミュレーション教育についてのスキルアップをはかっている

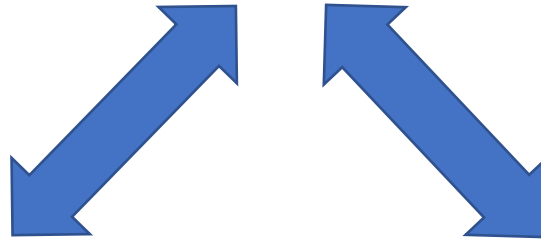


こども病院救急シミュレーションの構成

チームトレーニング

学習目標

- ①周心停止期を認識でき、的確な方法で人を呼べる
- ②質の高いCPR、および治療を行う
- ③良好なチームコミュニケーション



タスクトレーニング

学習目標

課題となった手技が習得できる

BLS講習会

学習目標

質の高いCPRを行うことができる



Nagano Children's Hospital

Pediatric Intensive Care Unit

Better Future for Kids and Families

こども病院救急シミュレーションの構成

タスクトレーニング

- ・ BLS/PBLS講習会（対象：全職員）
- ・ 気管切開患者のトラブルシューティング

Team STEPPS

- ・ 院内コードブルー事例、周心停止期及び急変対応、インシデント事例に焦点を当てたチームトレーニング
 - ・ 各病棟および医療技術部、部署ごとの救急シミュレーション
- （病棟は年2回開催、技術部は年1回開催）



Nagano Children's Hospital

Pediatric Intensive Care Unit

Better Future for Kids and Families

シミュレーションの実践

【テーマ】

- ・ 救急シミュレーション導入当時は、各病棟CPAアルゴリズムの習得を目的として、周心停止期の認識、緊急コール、質の高いCPR、良好なコミュニケーション（クローズドループコミュニケーション）をトレーニング
- ・ ここ数年各部署ごとの特殊性に特化したテーマでのシミュレーションが増加
- ・ 痙攣対応、アナフィラキシーショック、不整脈、周産期領域では超緊急帝王切開、気管切開患者の対応、MRI/CT造影検査の急変対応、リハビリ中の転倒、ABR検査中の急変対応



シミュレーションチーム活動内容

2010年～

- ・シミュレーションファシリテーターはチームメンバーが実施
- ・シナリオ作成は各部署のセーフティーマネージャーと打ち合わせしながらテーマを決定しファシリテーターがシナリオ作成
- ・5つの病棟が年2回、救急外来年3回、医療技術部は科ごとに年1回、そこにスキル・タスクトレーニングのファシリテーターも兼任
- ・メンバーの負担が増大



シミュレーション教育の導入増加
シミュレーション研修の増加
ファシリテーターの増加

2019年～

- ・看護部は各部署にシミュレーション研修の参加スタッフが増加し、チームメンバーと協働し、自部署のシナリオ作成を担当
- ・チームメンバーフォローのもと、ファシリテーターチャレンジ



Nagano Children's Hospital

Pediatric Intensive Care Unit

Better Future for Kids and Families

ファシリテーターの教育

- ・ シミュレーション環境を整え、導入（ブリーフィング）での雰囲気作りが重要
- ・ シミュレーション教育においては「デブリーフィング」の過程が重要となりデブリーフィングをきちんとできるスタッフの育成
- ・ 学習者を導くためには、ファシリテーターとしての経験を重ね学習者の模擬体験に対する緊張や羞恥心への柔軟な対応が必要
- ・ 指導者と学習者の双方向の「相互作用」「相乗作用」の成立
- ・ シミュレーション実践後の指導者からファシリテーターへのフィードバックとシミュレーションチーム内で情報共有



考察・まとめ

- ・ 救急シミュレーションの成果
「シミュレーションでの体験により、臨床での事象発生時スムーズな対応ができた」「マニュアルを見るのみでなく、シミュレーションでイメージができた」
- ・ ファシリテーターの負担軽減
- ・ シミュレーション指導者のレベルアップ
- ・ 今後もTeam STEPPSを活用した救急シミュレーションを継続し医療安全への意識を高め、安全性を高めるチーム医療の提供を支援



6 信州木曾看護専門学校

発表者：古田 育子

看護教育における シミュレーション教育の取り組み

専任教員 古田育子・湯浅度恵
滝沢真平・柴山里美
栗屋和美



長野県医療従事者シミュレーション教育指導者研究会 COI 開示

発表者名： ◎古田育子、湯浅度恵、滝沢真平
柴山里美、栗屋和美

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業、法人又は団体はありません。

はじめに

本校は平成26年に開校し10年目を迎える。
平成29年度に実施した本部研修センターの
見学をきっかけとしてシミュレーション教育に
取り組んできた。今回は、令和3年度の本校
でのシミュレーション教育への取組みを報告
する。

表-1 領域別でのシミュレーション（実習を除く）

分野	各領域の 時間数 (時間)	シミュレーションを 取り入れた 授業時間 (時間)	領域内での 割合	授業内容
基礎看護学	345	78	22.6%	バイタルサイン測定、全身清拭、採血など
成人看護学	165	12	7.0%	シミュレーターを使用した術後の観察など
老年看護学	105	6	5.0%	高齢者体験ほか
小児看護学	105	12	11.4%	新生児シミュレーターを使用したバイタルサイン測定など
母性看護学	105	10	9.5%	沐浴、妊婦体験ほか
精神看護学	105	6	5.7%	プロセスレコード
在宅・統合	195	8	7.6%	災害訓練への参加、災害時のトリアージなど
合計	1125	132	11.7%	

表-2 教科外活動でのシミュレーション

1年次	BLS
2年次	シナリオのあるBLS（本部研修センター）、多機能シミュレーターを使用した演習
3年次	統合実習前の演習

タスクトレーニング



本部研修センターでの学習の様子



高齢者体験



令和4年度新カリキュラム改正

ガイドライン

「シミュレーション教育を活用して、
実践に結び付けられるよう
教授方法を工夫する。」

今後の課題

- ・実践を養うシミュレーション教育が必須
- ・シチュエーションベースを増やしたいが多機能シミュレーターの使用には制限
- ・研修センターは遠方



- ・一つ一つの機会を大切にしていく
- ・教員全体のスキルアップが必要

7 本部研修センター

発表者：竹内 千景

シナリオ作成時における、 概念化シート活用の有効性 について

本部研修センター

竹内 千景・渡辺 剛

長野県医療従事者シミュレーション教育指導者研究会 COI 開示

発表者名： ◎竹内 千景 渡辺 剛

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業、法人又は団体はありません。

【はじめに】

当研修センターにおけるシミュレーション研修の変遷

H23 ハワイ大学医学部Sim Tikiシミュレーションセンター研修
開始

シナリオブラッシュアップ

H28 スキルアップ研修①～④
(④シナリオブラッシュアップ)

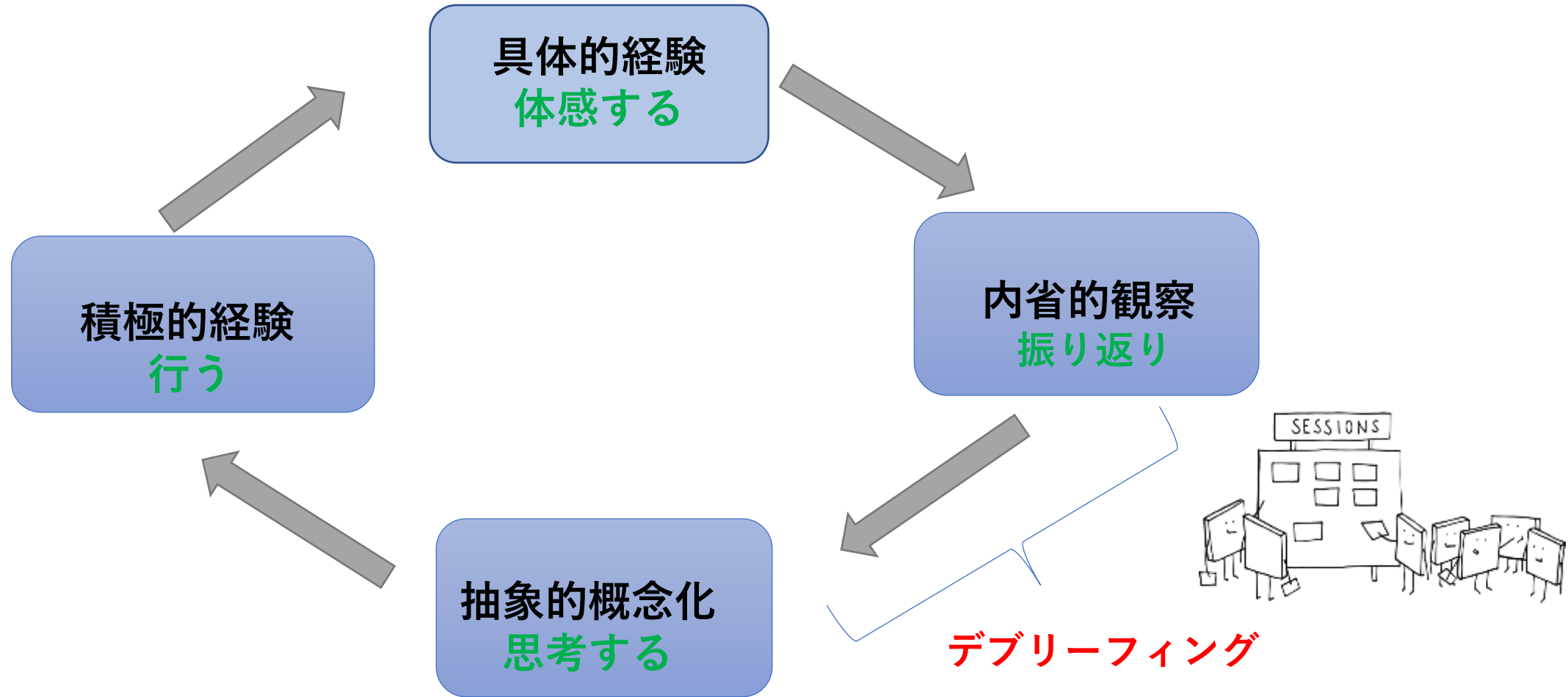
概念化

H30 スキルアップ研修①～③
シナリオブラッシュアップ

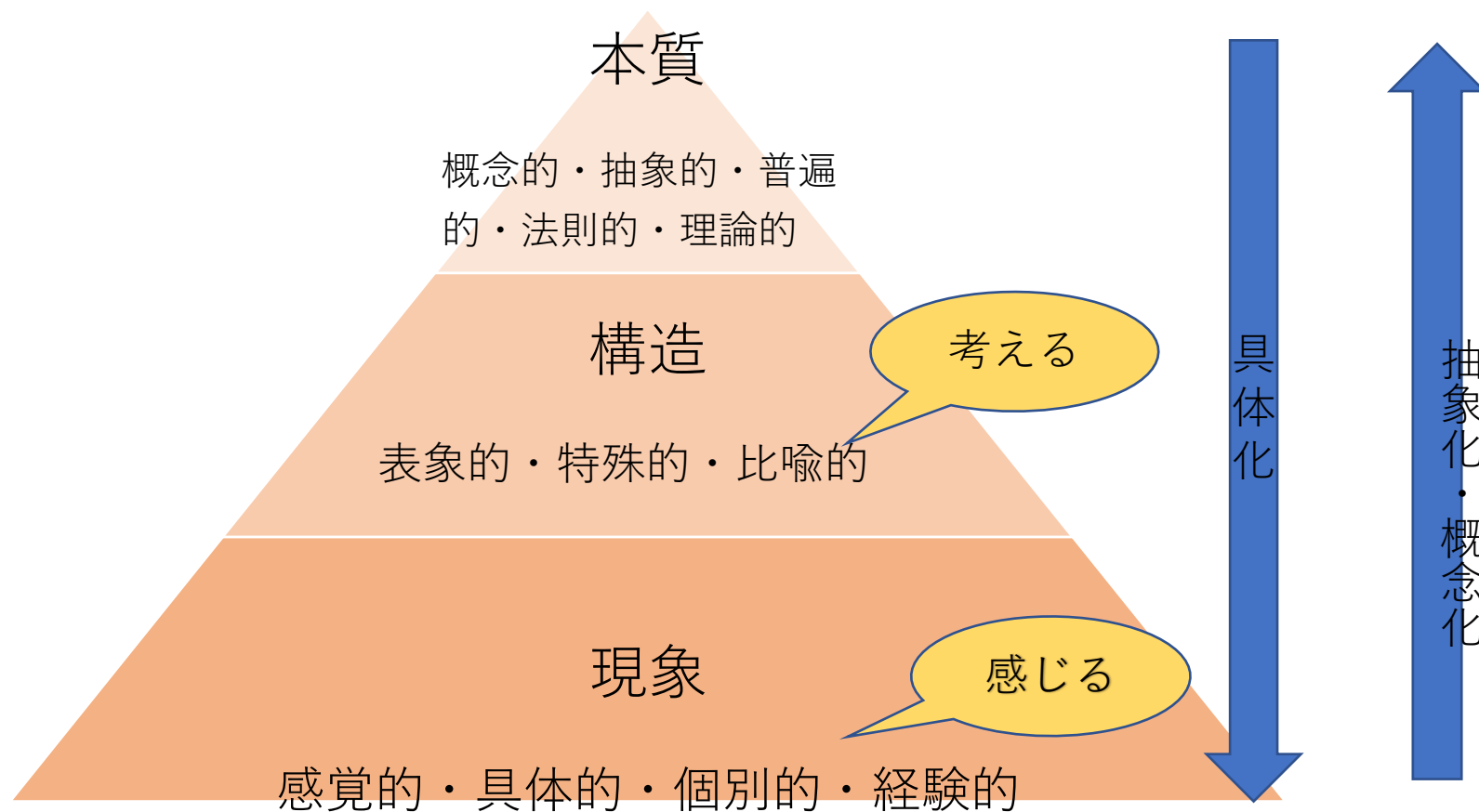


シミュレーション教育の土台となる理論

Kolb 経験学習理論



概念化とは何か？



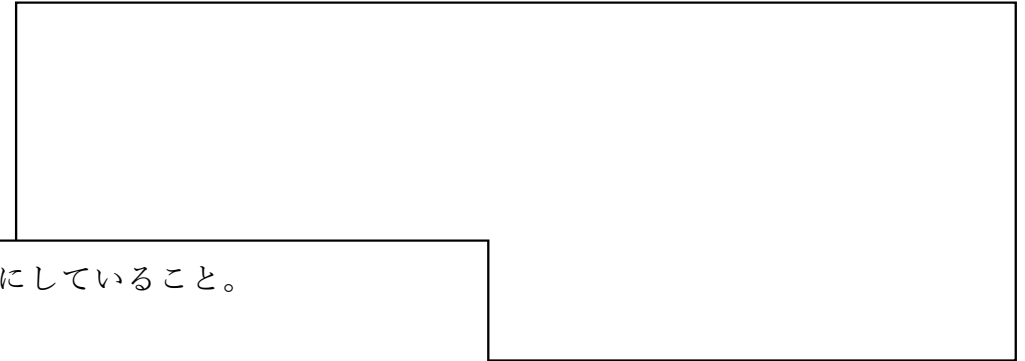
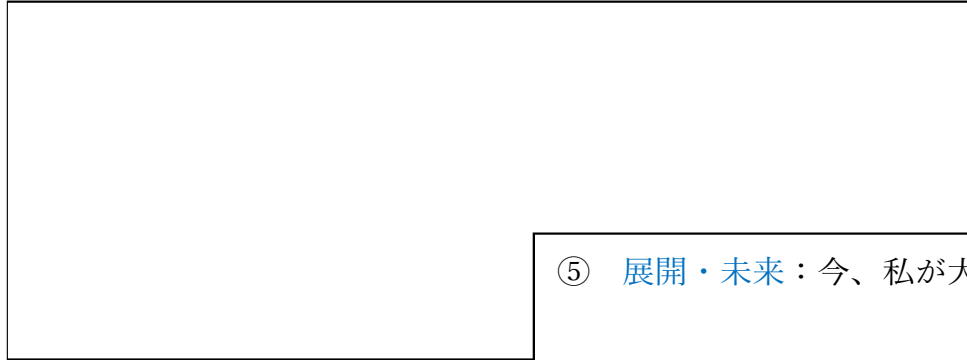
概念化：本質をつかむ過程

概念化シート

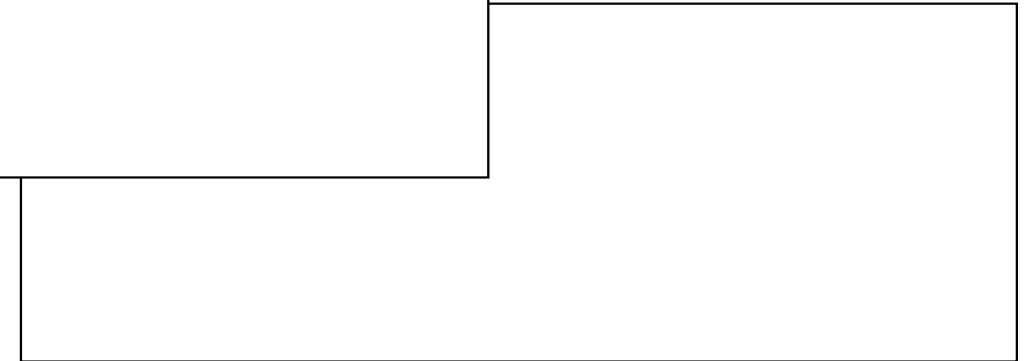
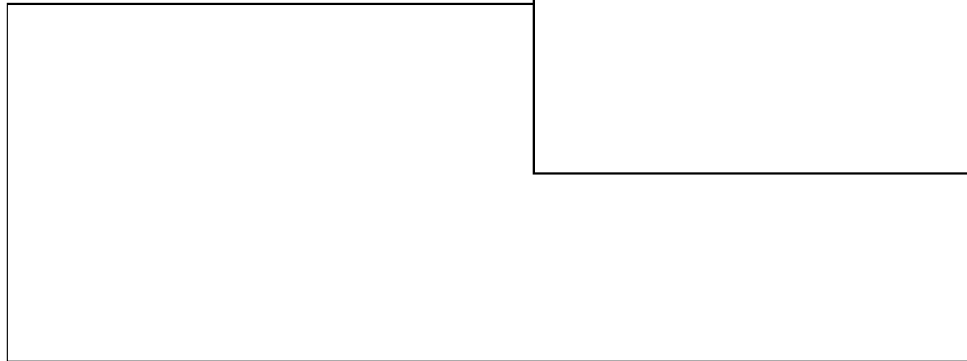
テーマ： _____

① 想起：忘れられない人・場面を過去の経験から思い出す。

② 内省：なぜその人・場面を忘れずにいたのか？



⑤ 展開・未来：今、私が大切にしていること。



④ 醸成：そのテーマを今後どのように深めていきたいか？

③ 焦点：私がこだわる（ ）の領域とは？
または、②は、（ ）のどのような関心領域（テーマ）
を示しているか。

【対象・方法】

(対象)

令和4年度シミュレーション教育指導スキルアップ研修の受講者および聴講者で、本研究への参加に同意した34名。

(方法)

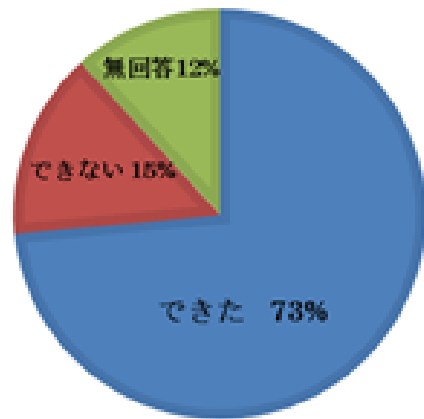
- 1 スキルアップ研修シリーズ①のシナリオ作成過程で、概念化シートの活用方法を、事例を示しながら受講者へ説明する。
- 2 受講者ごと概念化シートを活用してもらいシナリオ作成してもらう。
- 3 スキルアップ研修シリーズ②研修終了後、独自質問紙（アンケート）へ記載してもらう。

【結果】

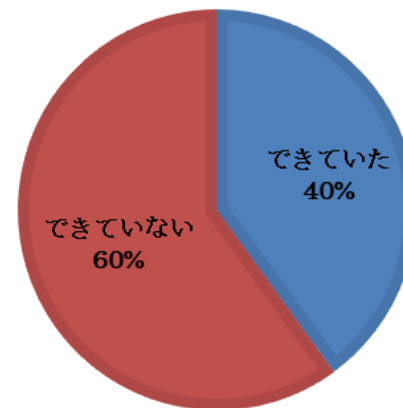
- 1 「概念化シートを用いることでシナリオのテーマが焦点化できましたか。」

シナリオ作成経験者

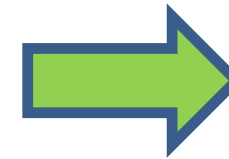
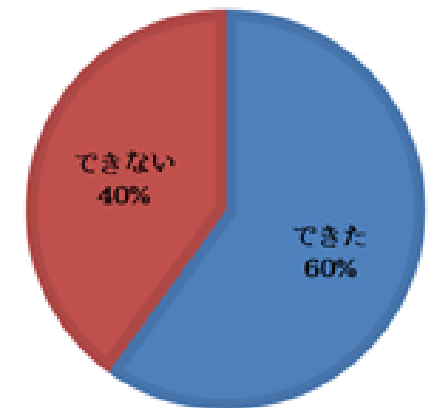
全体



使用前

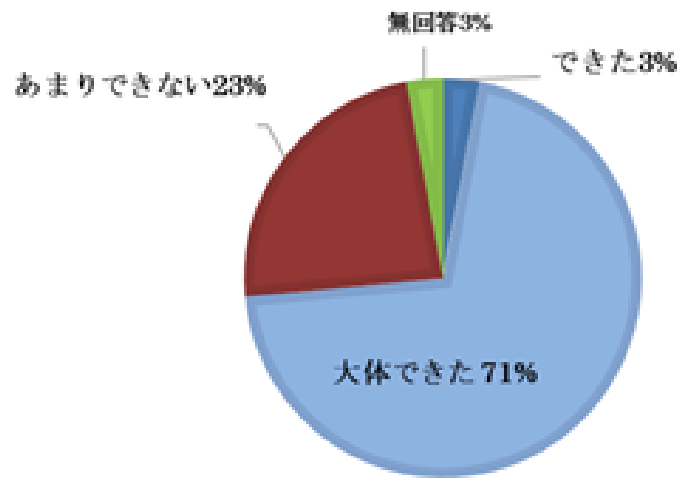


使用后



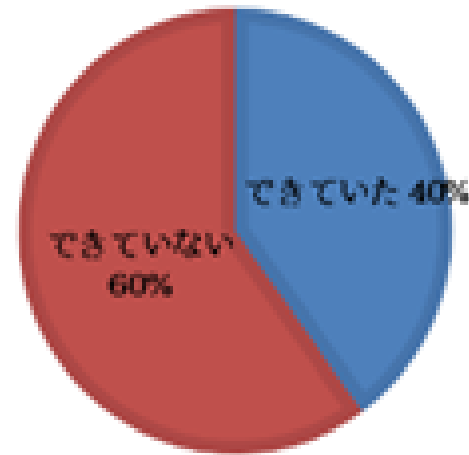
2 「焦点化されたことにより、何を概念として学べば良いかを見つける事ができましたか。」

全体

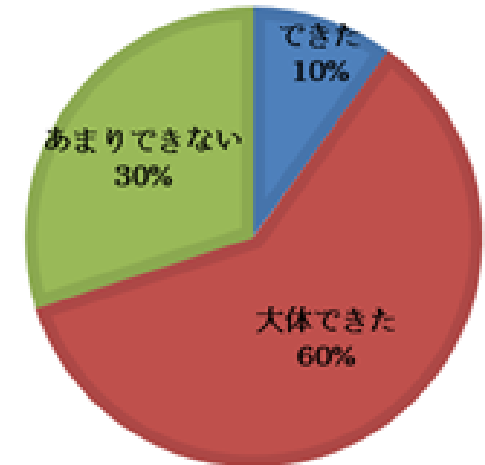


シナリオ作成経験者

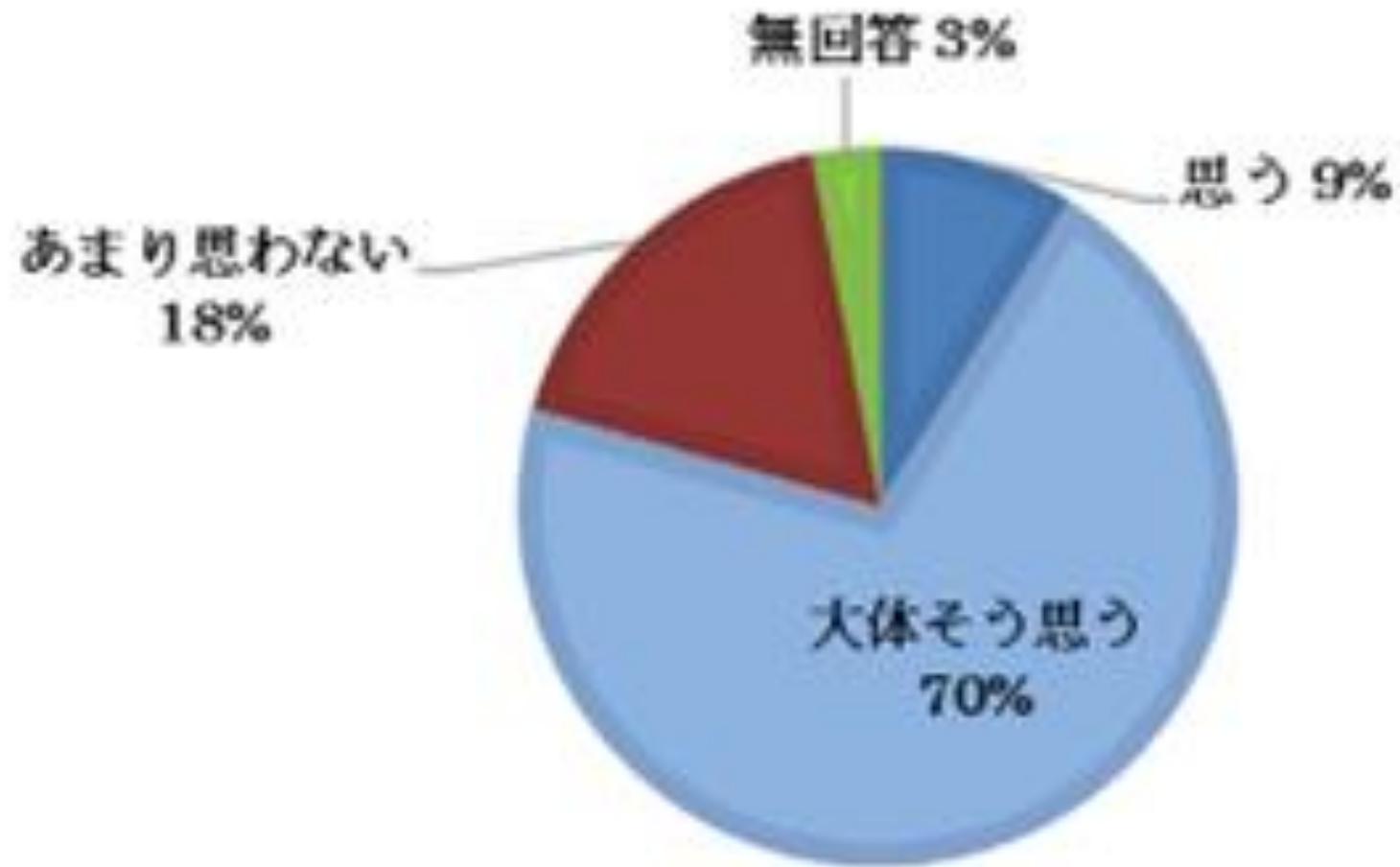
使用前



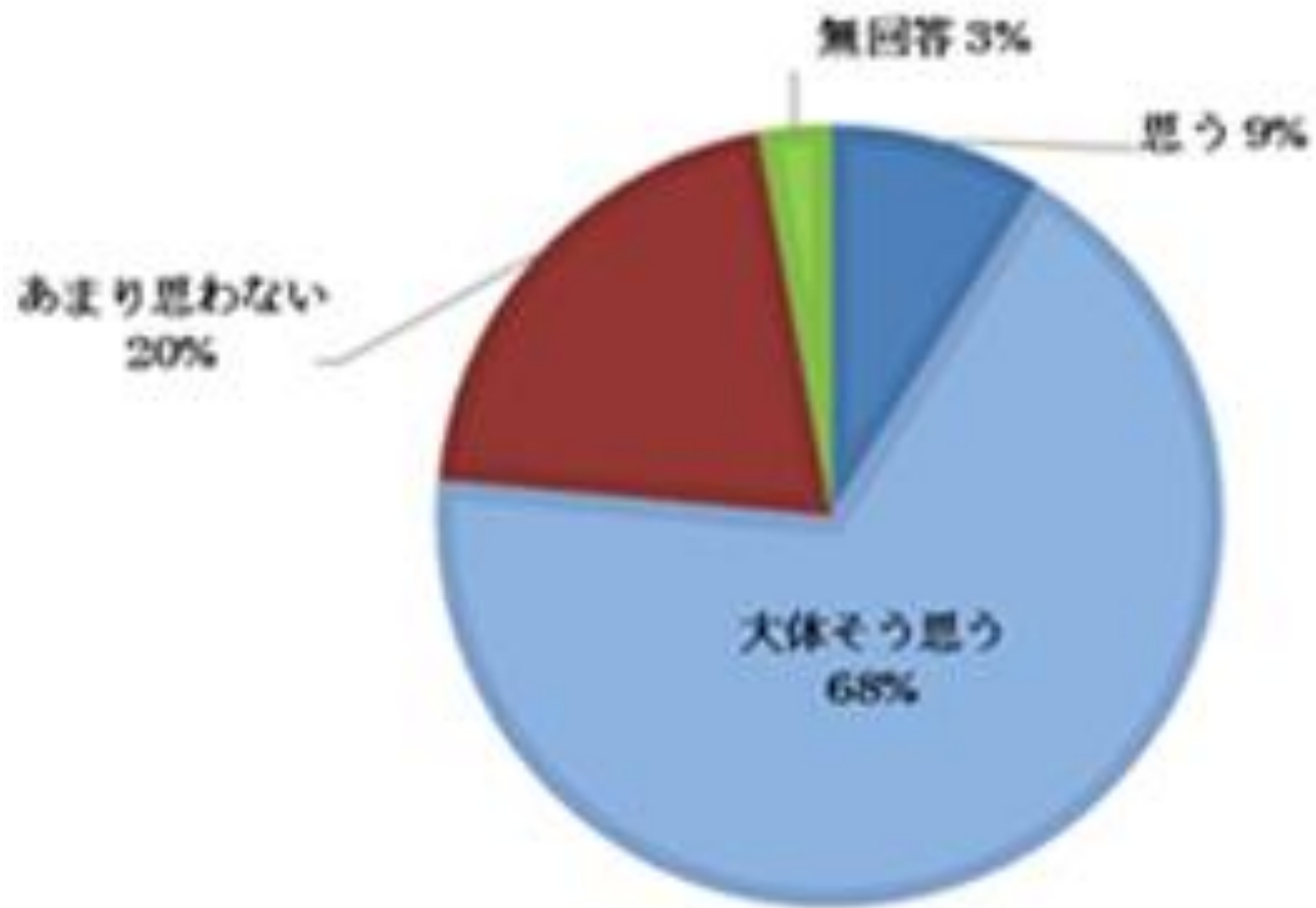
使用后



3 「概念化シートはシナリオ作成に有効であると思いますか。」



4 「概念化シートは使いやすいと思いますか。」



自由記述回答

<肯定的意見>

- ・シートを活用し、対象と課題について考慮することができた。
- ・何を大切にしたいか明確になった。
- ・感覚ではなく概念として考えることができたから。
- ・一貫した内容のシナリオを作るために有効だと思う。 等

<否定的意見>

- ・テーマを決定するのに有効かもしれないが、シナリオ作成に有効か否かはわからない。
- ・使い方をもう少しわかりやすく
- ・学習者に書いてもらおうと学習ニーズが分かりやすい 等

【考察・課題】

- ・ 概念化シートは、シミュレーションのシナリオ作成を進める上で有用なツールであった。
- ・ 「焦点化」「概念」「概念化」といった考え方自体の理解が困難。
- ・ 概念化シートの活用方法を含め、シミュレーション教育の在り方について検討が必要。